

平成23年9月25日の防災訓練は安否確認など通常におこなっている訓練に加え、地震によるライフライン欠如に対応する実務的な訓練が実施されました。

ライフライン欠如対応訓練実施時間は午前10時より午後8時までの長時間に及ぶものでした。

訓練は以下の内容を中心に行いました。

1. 停電対応訓練
2. 水道断水対応訓練
3. ガス供給遮断対応訓練
4. 電話不通対応訓練
5. 汚水下水管の破断対応訓練

消防署による指導訓練（煙体験、初期消火、救護搬送）の参加者は500名を超え、3.11東日本大震災後の防災意識の高さを窺わせました。安否確認訓練はハイツ住民の約75%の人達が対応し、要救護・救援者は120名となっています。ライフライン欠如に対する訓練は今回初めておこなわれましたが、長時間に亘って行われたにもかかわらず概ね平穩に実施されました。汚水下水管破損なし確認については手間取った人たちもいました。

他に合理的な確認方法があれば検討していきたいです。

裏面に「ライフライン欠如の対応マニュアル」を掲載しましたので、保存版としてご活用ください。



防災アンケート集計結果報（注意事項）

1. 東日本大震災のドリームハイツでの震度は5弱でしたが、被害率は高層階程高い傾向がありました。
2. 被害品の内容は食器棚が最も多く、特に食器の飛び出しが139件と最大でした。食器棚扉の施錠を心がけましょう。本棚の本の落下防止にも配慮しましょう。
3. 倒れ被害はテレビが31件と最も多く、本棚が21件と上位を占めました。ご自宅の倒れ防止策の確認をお願いします。
4. ずれの被害はテレビが57件、冷蔵庫が44件、筆筒が39件と上位を占めました。ずれ防止策の確認をお願いします。
5. 生活必需品の備蓄状況は懐中電灯が95%と高かったですが、100%が基本です。トイレパックは1日1人5個を目安に準備して下さい。飲料水と非常食は今回の震災の反省から、1週間分は必要と考えられます。飲料水の目安は、1人1日3リットルです。

携帯ラジオの所持が78%と多かったようです。

地震情報を身近で常に聞くように心がけましょう。携帯電話の充電用に乾電池式の充電器を用意しておくよと良いでしょう。

6. 災害時の連絡方法を決めていないご家庭が60%を超えています。家族で話し合っておきましょう。
7. 防災訓練の参加は89%と高くハイツ住民の関心度が高い事が分ります。訓練方法も変わりますので引き続き積極的な参加をお願いします。

「基本は人に頼らず自分で備え、
自分の身は自分で守る」

講演会のお知らせ

「皆さんの減災行動と 隣近所の協力」

日時：11月12日(土)

10:00~12:00

場所：第一集会所 洋室

講師：横浜市消防局危機管理室

課長 小野寺 勝 氏

ライフライン欠如の対応マニュアル 県ドリームハイツ防災隊

ライフライン欠如に対応する実務的・基本的なことはつぎのようになります。

1. 停電対応について

- ①エレベーターは使用しないで下さい。
- ②今まで使っていた電気器具のスイッチを切り、コンセントを抜いてください。
- ③ラジオ・懐中電灯・ローソク・マッチ・予備電池などの準備をしてください。

2. 水道断水対応について

- ①日頃から浴槽に水を張っておくようにします。
- ②飲料水は最低7日分は準備しておきましょう[一人当たり一日3リットル]
- ③ハイツの防災井戸水は飲料以外の生活用水です。

《防災井戸はハイツ内に4箇所ありますので確認しておきましょう。「生活のしおり2006年版」参照》

3. ガス供給遮断対応について

- ①ガス器具の元栓を閉めてください。
- ②卓上コンロ・ガスボンベなどの器具を準備して熱源としてください。
- ③マイコンメータは自動にて閉鎖になります。「生活のしおり2006年版」参照

4. 電話不通対応について

- ①災害時は電話及び携帯電話通話も困難となります。
- ②携帯電話メールは有効な情報連絡手段です。時間がかかりますが相手には届きます。

5. 汚水下水管の破断対応について

- ①水洗トイレが使えません。トイレバックを使用してください。
- ②トイレ・台所・洗面・風呂などは汚水排水系統の破損なしが確認されてから使用となります。

6. 汚水下水管破損なしの確認方法

- ①1階の居住者はバケツなどに風呂の水を入れて10回ほどトイレに流します。
- ②トイレに流した水が流れた事を確認して、2階の居住者に問題なく流れたことを伝えます。
- ③2階の居住者は上記の①の方法にて確認して、3階の居住者に問題なく流れたことを伝えます。
- ④3階の居住者も上記の①の方法にて確認して、4階の居住者に問題なく流れたことを伝えます。
- ⑤最上階の居住者まで同様の方法にて確認してください。但し、留守の場合はその上階に連絡です。

7. その他

* 災害用非常持ち出し品袋の中に、多少の現金は準備されたほうが良いでしょう。

- ◎ いざというとき、助けあうことができるよう日ごろからの付き合いを大切にしましょう。